

【分校】令和4年度 京都府立綾部高等学校（分校全日制） 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）	
・学力の向上と希望進路の実現 ・基本的生活習慣の確立 ・基本的人権を尊重する態度と豊かな人間性 の育成 ・健康及び体力の維持・向上 ・地域社会から信頼される学校づくりの推進	<成果> ◇新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域との連携事業の多くが縮小や中止となった。そのような中でも、即売会と東祭の販売においては感染予防の対策をしながら、ほぼ例年と同程度の取組を実施するなど、特色ある学校づくりを推進することができた。 ◇学校農業クラブの行事も縮小されるなかでも、情報処理競技会や資格取得、オンラインでの学習発表会等、成果を上げることができた。また、農業クラブの大会では意見発表の部において日本学校農業クラブ全国大会に出場を果たすことができた。 ◇産学連携の酒づくりプロジェクトや菊人形の制作など新たな取組を始めることができた。 ◇保護者や中学生等への広報は、タイムリーなホームページの更新を心がけた。全国農業高校・農業大学校デジタルコンテストホームページ部門で一次審査の結果、優秀と認められ京都府の代表に選ばれた。 ◇個に応じた丁寧な進路指導を低学年から計画的に行い、就職率100%を達成することができた。また、進学においては国立大学に1名合格することができた。 ◇登校時と朝のSHRでの健康観察により、生徒の健康状況を丁寧に把握する等、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めた。 ◇ICT機器の整備が進み、ICTを活用した授業改善や業務改善につなげることができた。 <課題> ◆家庭への連絡等はより一層丁寧にし、信頼される学校づくりに努める必要がある。 ◆安全・安心な学校環境づくりを心がけ、組織的な取組により、落ち着いた学校づくりに努める。 ◆ホームページ等で情報発信をしているが、それを見てもらう工夫が必要である。 ◆地域・関係機関・各種団体等との連携を更に強めるとともに、由良川キャンパスの特色のPRに努め、生徒募集の充実を図る。 ◆新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった生産物の外部販売をコロナ禍においていかに工夫していくかが今後の課題である。 ◆4S運動は教職員の意識の高まりとともに定着してきているが、より一層推進していく必要がある。	■ A・G・P (Ayabe Global Program)の推進 〈スマートスクール〉 ・ICTを活用した授業 ・BYODを活用した授業 ・ロイロノートの活用 ・スタディサブリの活用 <u>・ONLINEの活用</u> ・ペーパーレス化 (Slack) 〈探究活動〉 ・思考力・判断力・表現力の育成 <u>・海外高校生との交流</u> 〈地域発信〉 ・アンネのバラ園を拡充 ・地域でのボランティア活動 ・生産物の外部販売を推進（西町アンテナショップでの販売） ・綾高ブランドの開発 ・地域での部活動発表 <u>・地域でのボランティア活動</u> 〈連携事業〉 ・京都先端科学大学 ・福知山公立大学 ・京都工芸繊維大学 ・京都工芸繊維大学 ・同志社大学 ・京都府立農業大学校 <u>・地域企業とのコラボ</u> ・農業体験授業 ■ 3Q・4Sの推進 3Q 〈Quality Teacher〉 教師としての資質向上 〈Quality School〉 教育内容の充実 〈Quality Students〉 未来を切り拓く人材の育成 4S 〈整理〉〈整頓〉〈清潔〉〈作法〉 整理整頓を心がけ、清潔な職場・学習環境を整える TP0に応じた言動を心がける 明るく元気に、笑顔がある学校 ■学校農業クラブの活性化	

	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価		成果と課題
組織運営	魅力のある学校づくり	これまでの農業関係推進事業を生かし、官・民・学との連携を一層充実する。	A	B B	コロナ禍も3年目を迎え、以前のような官民学との連携事業由良川クリーン大作戦や地元企業や団体との充実した取り組みを実施することができた。 由良川キャンパスの活動を多くの方々に知っていただく広報方法を更に検討していく必要がある。
		在校生やその保護者にタイムリーな情報発信に努める。また、中学生とその保護者、地域の方々に本校の教育活動を理解していただくため、広報活動を充実させる。	B		
教務部	学習意欲の向上と授業規律の充実	生徒の学習意欲を高め学力が向上する学習環境作りを進める。	B	B B	全体的に落ち着いた雰囲気です授業を展開することができた。今後はさらにBYOD端末の効果的な活用場面を検討し、一人一人の状況に応じた学習を展開させる必要がある。
		定期考査前の1日平均の家庭学習時間（分）を100分以上となるよう指導する。 （100分以上ならA、80分以上ならB、それ以下ならCとする）。	A		
総務企画部	生徒募集	由良川キャンパスの魅力を、学校案内や通信・HP等を通じて、中学生へアピールする。	B	A B	今年度は学校案内を今までとは違うデザインにすることでインパクトのあるものにした。学校通信も定期的に出すことで中学生へのアピールができた。HPについては更新等もあり、活かしきれていないところがあったため、今後改善しより良いものになるようにしたい。学校公開についても中学2年生向けのものを今年度より実施した。在校生を活かした内容を増やすことで効果を得た。
		中学生向け学校公開を年4回、中学校教員向け学校公開を年1回実施し、その内容を充実させ、学習内容を十分理解した上で入学できるよう工夫する。	A		
生徒指導部	自らの行動を振り返りながら新しい目標を作り、主体的に行動に移していける力を育てる。	授業を大切に、机脇にかけたスマートフォン袋の積極的活用に取り組む。	A	B B	授業中のけじめについては、おおむね確立してきた。ただしスマートフォン袋の積極活用には至っていない。今後も積極活用を周知し、授業ルールの1つとして確立できるようにしていきたい。
		生徒指導部預かり件数 5件以内：A 10件以内：B 11件以上：C	B		
進路指導部	生徒の希望進路の実現に向けて細やかな指導を行う	職員室の出入り口で正しい挨拶や返答ができるよう習慣化する。	B	B B	冬季に異装をする生徒に対して、朝の立番や定期的な服装チェック時に、継続して注意を促し改善するよう指導を行っている。一部の生徒で速やかに改善できない者があるのが現状である。今後も継続して指導をし、正しい制服の着こなしができるように指導していきたい。
		進路に関する様々な情報を的確につかめるように、連携を密にして情報を共有する。	A		
		希望進路の100%実現に向けて、求人開拓や進学指導を進める。	B		学年部を中心に他分掌と連携して、情報を共有することができた。 求人開拓や進学指導を進めたが、目標としていた進路希望の実現は94%にとどまっている。

保健部	健康を自律的に管理できる力の育成	保健学習や委員会活動を通して、自らの健康について考えさせる。	A	A	A	各学年で計画的に保健学習を実施し、健康について考える機会とすることができた。また、昨年に引き続き基本的な感染対策に留意するとともに健康の自己管理について継続的に指導した。
		自分の健康状態を管理し、感染症の予防に努める生活を指導する。	A			
農場部	農業クラブ活動の充実を図る	農業クラブの大会や各種コンテストなどの入賞を目指す。	B	B	B	農業クラブ府連大会にて、意見発表・プロジェクト発表が入賞となった。資格取得に挑む生徒が例年より少なく、受験や合格させる指導の強化が必要である。学習発表会は体育館で実施し、次年度以降の目途が立った。
		資格取得率の向上を目指す。	B			
一学年	学力の向上	評定平均4.0以上の人数を指標として、ひとりひとりの評定平均の向上を目指す。 A：10人以上　B：9人～6人　C：5人以下 さまざまな資格取得を目指す。	C	C	B	観点別評価になって、欠点が出にくくなったが、同時に評価「5」も出にくいので結果的に「3」のあたりに固まってしまった。「成績評価表」を見直していかなければ、高い評定平均をつけられず、推薦希望の生徒が苦労すると考えられる。
第二学年	学力の向上	進路選択の幅を広げるため、積極的に資格取得に取り組むように指導する。	B	B	B	進路指導部と連携して進路学習に取り組みせ、適宜担任が進路に関わる話をするなど、生徒の進路と学習に対する意識が高まるよう指導した。その結果、多くの生徒が進路を意識するようになったが、生徒間での差が大きかった。
		進路を考えさせる中で、自主的に学習に取り組みせ、個々の学力向上を目指す。	B			
		基礎学力補償の時間を大切にし、基礎学力を定着させ、不認定科目0を目指す。	B			
第三学年	進路の決定	生徒一人一人に応じた進路指導を心がけ、全生徒の進路決定を目指す。	B	B	B	進路指導部に大変お世話になり、ほとんどの生徒が進路決定した。一部未定の生徒もあった。
		進路について自ら考え、目標を明確にする。	B			
国語科	国語の基礎的な学力の確実な定着	小テスト、学習課題を活用し、定期考査平均60点を目標とする。	A	B	B	定期考査の平均点は60点をこえ、全体として得点が上昇した。しかし、平均点に満たない生徒が数名いる。そのため来年度は、その生徒たちにも粘り強い指導を行ってきたい。
		アクティブラーニングなどを通して、自分の考えや意見をしっかり持てるよう指導する。	B			
地歴・公民科	学習習慣の確立	教科書に即したプリントなどを活用し、わかりやすい授業となるように努める。	A	B	B	より教科書に即したプリントにするため自作した。用語に難解なものが多く、理解させるのに時間がかかったが、スピードより内容理解を重視して授業を進めた。エッセイコンテストは募集がなかった。
		JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテストに応募し、SDGsと関わる思考力・判断力・表現力を育てる。	C			
数学	学力向上	演習補助プリントを年間20枚作成し、反復練習を充実させることで学力の定着をはかる	A	B	B	練習プリントについては各単元ごとに20枚程度作成し提出後の添削を返却することによって学習の定着をはかった。しかし各学期ごとに不認定生徒が複数でた。
		不認定生徒をゼロにする	C			
理科	学力向上	生徒が理科に対して興味を持ち、理解しやすい授業展開を工夫する。	B	B	B	当初は生徒の学力のレベルがわからず、少し難しい所まで展開してしまった所もあったが、一学期が済んだあたりからペースがつかめてきたと感じた。放課後は、定時制の授業がある関係で生徒が早く帰ってしまうので補講を実施する機会はなかった。
		プリントや問題演習を多く取り入れることで復習の機会をつくり、内容の定着を図る	B			
体育科	生涯体育につながる資質や能力の育成	意欲的・主体的に運動に取り組む。	B	B	B	全体的に意欲的に取り組めたが、個人差もあった。運動部加入者も少ないため、体育授業でもう少し体づくり運動等を取り入れ、体力向上を図る必要がある。コロナ禍で密集での集団行動はできなかった。
		各授業の中で、体力向上のための時間を設定する。	B			
家庭科	自立に必要な力の育成	ICTを効果的に活用し、ユニバーサルデザインの視点を持った分かりやすい授業を構築する。	B	B	B	1年生の家庭総合においては、生徒の考えを集約・交流したり、生徒自身が課題を解決する調べ学習など、タブレットの効果的な活用ができた。更に研修を重ね、分かりやすい授業を作る必要がある。
		実践力を身につけるために、授業の50%を実験・実習にあてる。	A			
英語	基礎的な学力の定着	小テストを定期的実施し、基本的な知識の定着を図る。平均点6割以上を目指す。	A	B	B	単語テスト・動詞テスト・課題テストを数多くまた定期的実施し、学力の定着を図ることができた。iPadを用いることで英作文の練習や課題を多く取り入れ、それにより英語を使って表現しようとする態度を養うことに繋げることができた。
		英語を使って表現しようとする態度を養う。	A			

芸術科	基礎技術を充実させ自ら表現しようとする意欲を育てる	生徒一人ひとりの能力の掌握に努め、基礎的な内容から高度な内容まで表現できる幅を広げさせる。	B	B	B	基礎的な内容の習得だけでなく、各自の能力を伸ばす課題を工夫した。
		表現活動を適切に評価できるように指導と評価の分析に注力し、生徒の意欲向上へつなげる。	B			
		授業時間を有効に活用し、授業規律を大切にする。	B			
農業科	基礎・基本の定着を意識した専門教育の充実	ICT機器を効果的に活用しつつ、農業の基礎・基本の習得を意識した授業展開を行う。	B	B	B	写真や動画を効果的に活用し、生徒の理解を深めることができた。今後はBYOD端末の更なる利活用や実習記録簿のなどの提出物に関する指導も含め、一人一人に応じた指導を行いたい。
		定期的に提出状況の確認を行い、適切な指導を行う。 各考査時の記録簿提出遅れ A：0～1人 B：2～4名 C：5人以上	C			
園芸科	専門教育への学習意欲の向上を図る	各専攻の学習や実習を充実させ、生徒が興味・関心を持ち取り組む教科指導を行う。	B	B	B	各種事業や地域との連携事業において、新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度に引き続き、中止となったり、開催方法の変更や規模縮小となった。その中で感染対策を十分にとり、できる限りではあるが積極的に参加することができた。ただし、参加が困難となる事業も一定あり、生徒の日頃の成果を十分に発揮させることができなかった。
		地域との連携事業を積極的に行い、生徒に自信を持たせる取り組みを行う。 事業参加数5以上：A 3～4：B 2以下：C	A			
農芸化学科	特色を活かした専門教育の充実	新カリキュラムの実施に伴い、各授業内容の充実を図る。	B	B	B	校外研修や社会人講師など、見直しを含めた精選が必要である。 新カリキュラムによる授業内容やI T Cによる授業について検討が必要である。 食品衛生責任者は、挑んだ12名の生徒全員が資格を取得した。次年度は受験者数を増やしたい。 東祭や即売会、中学生への体験授業などについては、昨年度から内容を改善し実施した。
		専門的な知識・技術の習得及び深化を図ると共に、資格取得への意識を高め、合格率100%を目指す(100%以上ならA、100%未満95%以上ならB、それ以下ならCとする)。	B			
学校関係者評価委員会による評価	①綾部高校の生徒は、明るく楽しそうに高校生活を過ごしている。高校生らしい高校生活を送っている。やりたいことができる学校。 ②コロナの中、集団の取り組み、動きが”静”になっている。もっと生徒が活躍できる場を見つけ、取り組んでほしい。 ③綾部高校の生徒は挨拶をしっかりと行うことができる。地域の人達から感謝される生徒になってもらいたい。 ④産学連携の酒造りも二年目を迎え、高校生が考えた商品を試作中である。今後も共に地域に貢献できる場を設け取り組んでももらいたい。 ⑤BYODの講習会を実施するなど、タブレットを使用した授業を展開している。ネットによるトラブルが生じないように教員、生徒両方のITリテラシーの向上に努めてもらいたい。					
次年度に向けた改善の方向性	①タイムリーなHP更新やメール発信を心掛け、保護者への広報を充実させる。 ②コロナ感染症による制限も少しずつ緩和され、通常に近い学校行事を実施することができた。来年度は更に通常に戻し生徒の思い出に残る行事を実施していきたい。 ③生徒を取り巻く危険性から守るため、警察署や外部機関と連携を密にし、充実した講習会を展開していく。 ④生徒会活動を活発に展開させるなど、生徒が元気で活躍できる場を作る。 ⑤個々に応じた丁寧な進路指導を行い、希望する進路実現を目指す。					